

# メキシコ映画の表現と記憶

## —メキシコ映画の紹介—

共催 神戸大学国際文化学術研究推進センター  
企画・通訳 アルバロ・エルナンデス

**13:00-13:40**

マリオ・ハビエル・ボガリーナ・キンタナ  
(Mario Javier Bogarín Quintana)  
(バハカリフォルニア自治大学・美術科・常勤講師)

### 「1931-1981年におけるメキシコ映画の コンテクスト——トレンドや監督に関する通史」

50年間にわたるメキシコ映画の歩みに着目し、主なトレンドや監督を通して、メキシコ映画の現状を紹介する。メキシコ映画の黄金時代から「ヌエボ・シネ・メヒカノ」（メキシコの新しい映画）と呼ばれる最新トレンドまでを分析する。メキシコと世界の政治的な文脈も取り入れながら解説することで、メキシコ映画産業の複雑な現状やメキシコ映画における表現形式の変遷を理解する手がかりをつかむ。

**13:40-14:20**

ファン・ラモン・アグーンデス・バルガス  
(Juan Ramón Agúndez Vargas)  
(バハカリフォルニア自治大学・美術科・臨時講師)

### 「『ROMA/ローマ』—映画、記憶、そして現代 メキシコの複雑な時代の現実」

アルフォンソ・キュアロン監督の映画『ROMA/ローマ』から、1968年の「トラテロルコ」と1971年の「コーパスクリスティ」という名称で知られる、メキシコ政府による学生の虐殺を含むメキシコの社会的・政治的な状況を読み取る。この話では、そういった政治問題とキュアロン監督の個人的記憶の分析を通して、過去のメキシコの感情的な教育に接近することにより、現在のメキシコを理解するツールを提供する。そして、ストーリーミング時代に入った映画文化産業において、メキシコの社会的・人種的な不平等問題と向き合うことで、歴史的な記憶表現を通して政治的な活動と合流する映画監督の役割について考えるきっかけを作る。

**14:30-15:00**

質疑・ディスカッション  
司会 アルバロ・エルナンデス  
(国際日本文化研究センター・プロジェクト研究員)

**日時** : 11月26日 (火) 13:00~15:00

**場所** : 神戸大学国際文化学部

(鶴甲第一キャンパス) A棟4F 「中会議室」

**対象** : 関心のある方 (無料) 申し込み不要

**お問い合わせ** : アルバロ・エルナンデス [alvaro.d.hdz@gmail.com](mailto:alvaro.d.hdz@gmail.com)